

給食だより



令和8年1月
さいたま市立植竹中学校

1月24～30日は全国学校給食週間です

学校給食の意義について考え、理解や関心を深める週間です。現代の給食は栄養バランスが整い、豊富な食材を使ったさまざまな献立があり、おいしく食べることができます。ここで学校給食の歴史を見直してみましょう。

～学校給食の歴史～

【写真提供元：独立行政法人日本スポーツ振興センター】

明治22年
(1889)

○学校給食のはじまり

山形県の忠愛小学校でお弁当を持ってくることができない、経済的に恵まれない児童に昼食を出したことが学校給食のはじまりと言われています。その後、大正時代にかけて一部の地域で給食が始まっていきました。



昭和16年
(1941)

○戦争で学校給食の危機

戦争による食糧不足、学童疎開で学校給食を続けることが難しくなり中止となりました。

昭和21年
(1946)

○戦後初の学校給食開始

12月24日、海外からの援助物資（ララ物資）によって東京都、神奈川県、千葉県で戦後初めての学校給食が作られました。冬休みとの関係で、その1ヶ月後の1月24日が学校給食記念日となり、24日からの1週間が全国学校給食週間とされました。



昭和25年
(1950)

○完全給食のはじまり

アメリカ合衆国から小麦粉が贈られ、パン・ミルク（脱脂粉乳）・おかずの完全給食が行われました。その後、昭和40年頃に脱脂粉乳から牛乳へ、昭和50年頃にはパンから米飯中心となり、現在の給食の形となりました。



☆植竹中の給食週間の給食は…

給食のはじまりと昭和25年頃の給食を再現したタイムスリップ献立、さいたま市の姉妹都市・友好都市のある国・県の料理が登場します。お楽しみに！

★家庭科コラボ献立を振り返ろう★

現3年生が2年生の3学期に家庭科の授業で考えた献立を9月～12月の給食で実施しました。

昨年度のクラスから1人ずつ厳選して採用しました。

どれも栄養バランス・彩り・旬・地産地消などが考えられていてすばらしい献立でした😊

